

二子玉川地区水辺地域づくりワーキング

ニュースレター 第5号 2019. 7. 11

発行：国土交通省京浜河川事務所 世田谷区

令和元年 6 月 30 日(日)に、第 5 回二子玉川地区の水辺地域づくりワーキングを開催しました。

- 地域住民や二子玉川地区で活動されているみなさまを対象に、玉川区民館において、第 5 回二子玉川地区水辺地域づくりワーキングを開催しました。
- 今回は、「擁壁の高さを計画高水位+1.5m の完成高さとする案と計画高水位とする案」「兵庫橋を残すか、撤去するか」、「マンション前は、プライバシー強化のための植樹」「天端通行をするかしないか」について、全体模型と抽出模型による整備案をお示しして全体討議を行い、ご意見を出していただきました。
- 第 5 回水辺地域づくりワーキングには、24 名の方にご参加頂きました。
- 本ワーキングにおいて、マンション前の天端高を前回ワーキングより 70cm 下げたケース 2 で了解されたことから、今後、詳細設計を進めるとともに、次回ワーキング以降、兵庫橋撤去後の対応方針や堤防天端通行等について整備案を提案する予定です。また、第 6 回ワーキングでは、久地陸間の廃止及び動線について整備案を提案する予定です。

ワーキングのながれ

【第 1 回】

堤防の高さを確保することを目的にした案をお示しさせて頂き、ご意見を頂きました。

【第 2・3 回】

第 1・2 回ワーキングのご意見に対する整備案と回答をお示しし、参加者で討議して頂きました。

【第 4 回】

全体模型と抽出模型を見ながら、詳細設計に向けて整備方針を討議して頂きました。

【第 5 回】

全体模型と抽出模型を見ながら、詳細設計に向けて整備方針を討議して頂きました。

【第 6 回以降】

久地陸間の廃止及び動線について、方針及び整備案を提案します。

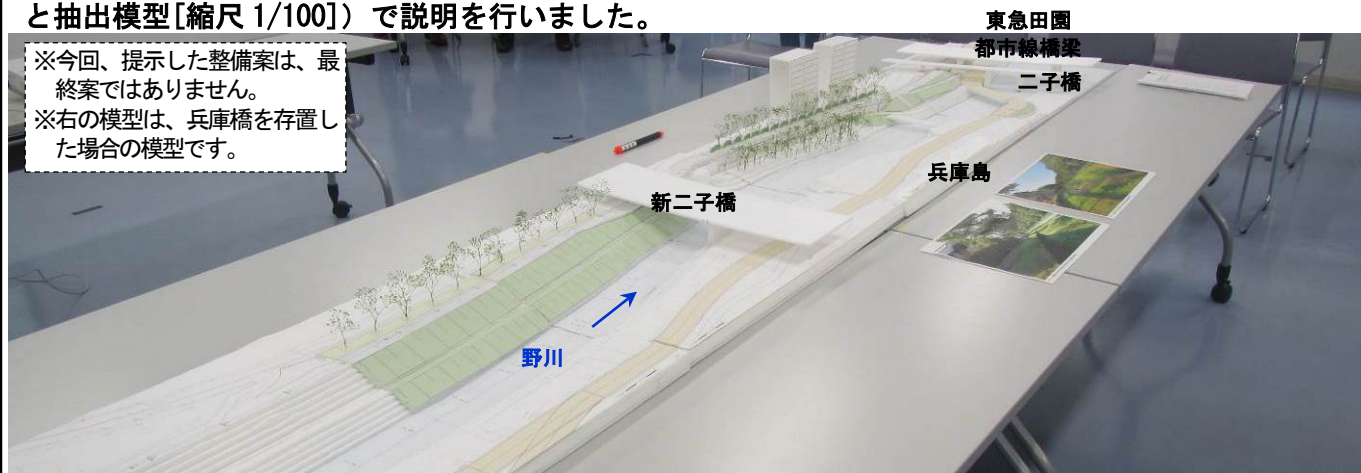
第 5 回ワーキングの概要

ワーキングは以下のプログラムで進行了ました。

1. 事務局による資料説明と多自然川づくり専門家による模型を使った整備案の説明

これまでのワーキングで頂いた意見に基づく整備案を、説明資料と 2 つの模型(全体模型[縮尺 1/200]と抽出模型[縮尺 1/100])で説明を行いました。

※今回、提示した整備案は、最終案ではありません。
※右の模型は、兵庫橋を存置した場合の模型です。



2. 全体討議 (東京都市大学：末政教授、五艘准教授、多自然川づくり専門家：吉村伸一先生)

参加者全員で模型を囲みながら、整備方針に対してテーマ別に、ご意見やご提案を頂きました。

3. 全体とりまとめ (東京都市大学：末政教授、五艘准教授)

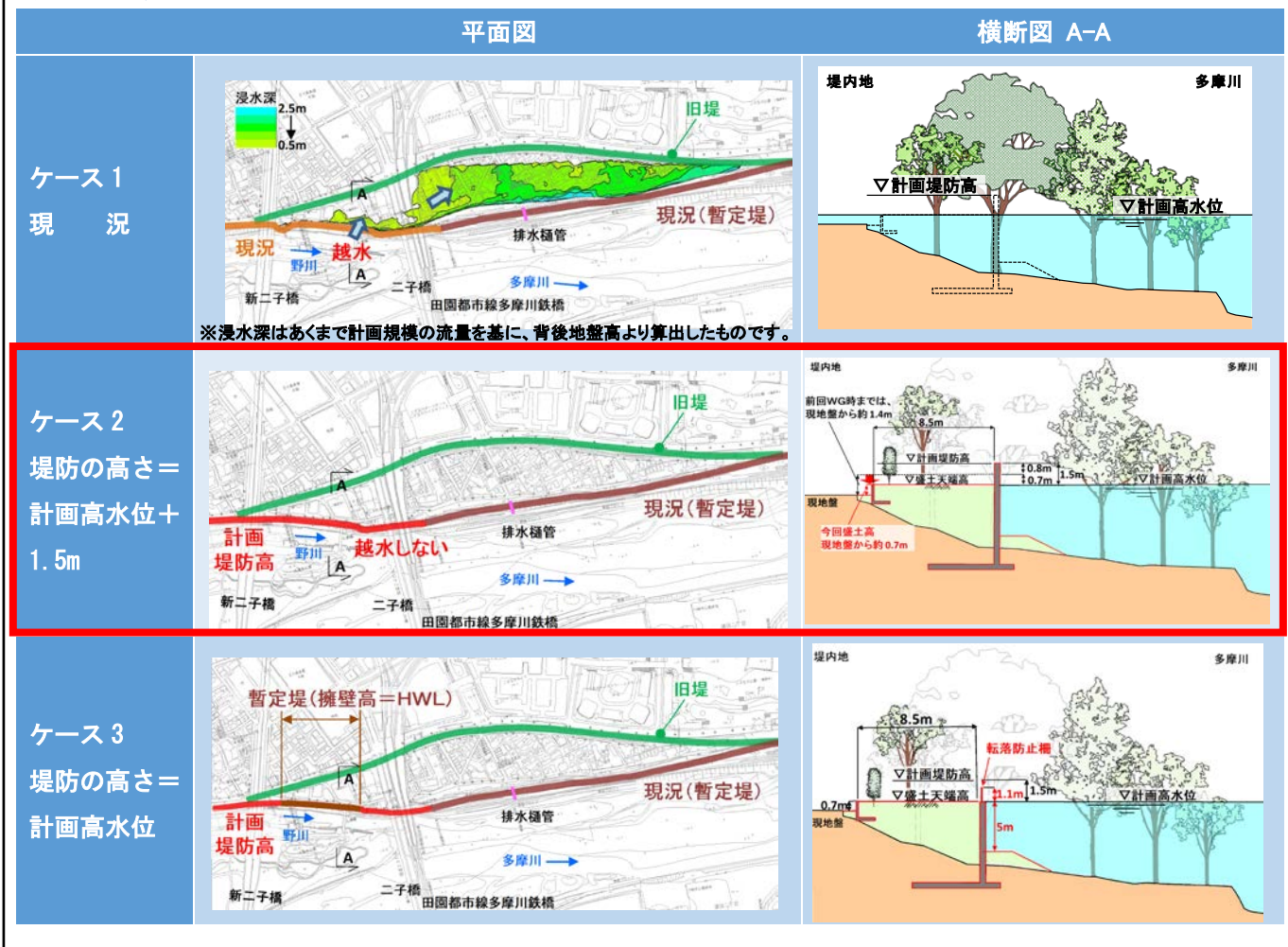
全体討議において頂いたご意見やご提案は、参加者全員で確認し、コーディネーターのお二人にとりまとめて頂きました。

～ご提示した主な対応方針～

ワーキングに提示した主な整備方針を紹介します。

第4回ワーキングまでの意見をふまえ「堤防の高さ＝計画高水位＋1.5mの完成高さ」及び「堤防の高さ＝計画高水位」等について、現況を含めた洪水時の越水氾濫イメージ等を示し、討議しました。

洪水時の越水氾濫イメージ



～ワーキングの様子～



とりまとめのご意見は、次のページに整理しました。

【今後の予定】

次回のワーキングは、久地陸開付近の動線に関する整備案を提案します。開催に当たっては、開催案内にて事前にお知らせします。

【お問い合わせ先】

国土交通省京浜河川事務所 調査課
 TEL: 045-503-4008
 FAX: 045-503-4058

◆このニュースレターとワーキングの配布資料は以下のホームページからもご覧いただけます◆

【国土交通省京浜河川事務所】
 【世田谷区】

<http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin00916.html>

<http://www.city.setagaya.lg.jp/tamagawa/13000/13006/d00158442.html>

第5回ワーキングで頂いたご意見は以下の通りです。

＜1. 擁壁の高さ：計画高水位+1.5mの完成高さまたは計画高水位＞

- 質問：ケース3（整備する擁壁高＝計画高水位）において、計画高水位（HWL）を超えたときに入ってくる水について確認したい。駅の南側（下流側）は暫定堤防で整備されており、北側が超える前に南側（下流）から越水するのではないか。

→回答：水は上流から流れてくる。どちらから越水するかはわからない。

- 質問：兵庫橋前も70cm天端が下がるのか。

→回答：兵庫橋前は、完成堤（土堤）による整備を行う区間であり、堤防天端高は計画高水位+1.5mである。（模型により説明）

- 背後地の上下流側の高低差はどの程度か。下流側の背後地盤高は上流側より低いため、上流側からあふれた場合、下流側にも波及するので、上流側は下流側より1.5m高い形（計画高水位+1.5m）で築堤してもらいたい。

→回答：上流側のほうが下流側より3m程度高い。二子橋によるせき上げの影響など河道内の障害物については計画高水位を検討する際考慮されている。

- 質問：洪水時においては、多摩川から野川へ逆流しているが、これは影響しないのか。安全性の問題はないか。

→回答：合流部は多摩川の水位にて野川の水位を検討している。安全性の問題はない。

- 質問：盛土天端高を前回WGより、70cm下げた1.5m擁壁の案を提示しているが、強度は問題ないか。

→回答：計画堤防高HWLからの1.5m余裕高は波、うねりや流れてきた物体によって堤防が壊れないようにするため。模型では青線から上が余裕高。現在土嚢を積んである高さがHWL。

- 質問：背後地と盛土の高低差はどうするのか。

→回答：法面で処理することもできる。

- 質問：なぜ盛土高さを70cm下げられたのか理由を説明してほしい。

→回答：河川構造令における「望ましい」盛土高（計画堤防高－80cm）は確保できないが、必要最低限の高さ（計画高水位相当）を確保したものである。

＜2. 兵庫橋を残すか、撤去するか＞

- 説明：原案は撤去案である。

- 質問：現況の兵庫橋の高さと新設する橋梁の高さを教えてほしい。沈下橋が流失して下流堤防に被害を与えた事例があったので兵庫橋は撤去して新しくしてほしい。

→回答：新設する橋梁の高さは、現況の兵庫橋とほぼ同じである。

- 意見：兵庫島公園及び兵庫橋の歴史的価値についての議論がないのでは。また、駅からの動線もあるので残していただきたい。

- 意見：安全になることは大事だが二子玉川らしさを残してほしい。兵庫島については、江戸時代から歴史がある。兵庫橋が現在の位置にあって発展してきた経緯もあるので、別の形でもいいから何か残しておいてほしい。

→回答（解説）：兵庫橋の存置と撤去については、新堤防と橋台基礎の位置関係から撤去案としている。撤去案については、車が通れる「新兵庫橋」と併せて現兵庫橋位置に飛び石など人が渡れるものをつくる形でモニュメント的な対応をすることも考えられる。

- 質問：橋台を作り直して人だけが通れるような形で再利用できないか。

→回答：費用が高くなる（新設の方が安い）

- 質問：新しい橋はどこにできるのか。現在兵庫橋を子供たちと使っている。今は兵庫島にすぐ行けるが、遠回りになるのでは。

→回答：80mくらい下流。駅からは近くなるが、大回りになることは避けられない。現兵庫橋位置に人のみを通すルートをつくる案を考える。

＜3. マンション前プライバシー強化のための植樹＞

- 意見：堤防の植樹の葉の処理が大変なのは。竹の地下茎の処理どうするのか。植樹した場合、掃除の費用をだれが負担するのか。できれば植樹なしがいいのでは。

→回答：常緑樹にする、低木にする等いろいろ案がある。処理費用について、世田谷区で処理することは難しい（区の管理区域ではないため）。国か区のどちらかが管理することになる。

- 質問：天端上の樹木は風があるので育たないのでは。

→回答：一般的にはそういうことも含めて側帯や樹種等検討しており、対応が可能である。

- 意見：背後地と堤防の高低差 70cm は壁ではなく法面で処理してほしい。

→回答：2割（1：2）勾配とすれば 1.4m くらいの距離で法面にする方向で考える。斜めのスロープとすることも検討。

- 意見：階段の横にバギー等の通れるスロープを付けてほしい。

＜4. 天端通行をするかしないか＞

- 意見：堤防は人を通す役割をしている。天端を通さないというのは難しいのでは。

- 意見：せっかくの本堤防であり、ぜひ通してほしい。

- 意見：天端を通さない方がよいということではなく、ここに限れば通す必要がない。マンションの裏側区道の抜け道をとおれる。プライバシーの問題ということではなく、野鳥のエリアに人が往来することが悪影響を与えるのでは。

- 意見：まっすぐ通れる道をなぜ通れないようにするのか。避難の問題も含めて通れるようにすべきでは。

- 意見：休日の散策くらいでしか使われないと思われる。動線を考えた案にならないか。

- 意見：散歩している人が多い。道があるのであれば歩かせた方がいい。天端を通さないということは考えられない。

- 意見：多摩堤通りなど道路事情が悪い（狭い、危ない）。駐輪場の設置の問題はあるが、上流側の地元として、天端を通してほしい。陸間の件と併せて議論してほしい。

- 意見：これまでの議論を踏まえて森がのこされることになった。兵庫島の歴史や当地域の事情もあるので環境を守るためには人を通さないでほしい。

→回答：公共の場であるので通してもらいたいのが前提。この件は設計に影響するものではなく、決着がまだつかないのであれば継続して議論することも可能。河川でやりたいことについてのアンケート調査で一番多いのは散策。散策できることが堤防の使われ方として重要である。環境とのバランスを踏まえ、住んでいる人が堤防を使って川に親しむことがよいのではないかと。

＜その他＞

- 質問：コヤマドライビングスクールのあたり（野川合流部）から下流の緊急用道路までの位置づけや状況について教えてほしい。

→回答：コヤマドライビングスクール付近の渡河橋梁から上流及び二子橋から下流の区間は整備済みである。上下流を接続することにより、緊急時において上流側から下流側までの物資輸送などのルートを確保できる。（上流側図面にて説明）

- 意見：野鳥の保護等のため、植樹計画について、外来種対応や実の成る木などを考えて間引くなどしてほしい。

→回答：後日相談することになる。間引いた後の管理は基本的に国・区ともしない。堤防に影響を与える場合は剪定等することになる。

- 意見：擁壁の外観について景観に配慮してほしい。